

定例探鳥会 200 回記念 - アオバト特集号

第 199 回
定例探鳥会

日時：2003 年 7 月 13 日 (日) 天候：雨
朝から雨で止みそうになく、高来神社でしばらくお話をして解散しました。

8月10日の定例探鳥会で200回になる、16年8ヶ月か！！
西ヶ谷修一さんが立ち上げたこの高麗山定例探鳥会、こまたんの活動のベースになっており、初心がどのように変化したのかももう一度初心の気持ちを振り返って考えてみたい。

1回 高麗山定例探鳥会を終えて！

初めての、高麗山定例探鳥会不安がいっぱい。こんな早い時間に人が集まるのか、コースはどうしたら良いのか、野鳥のあまり観察されない夏場はどうしたら良いか、等々。その日は特別寒さが厳しかった。参加者は16人探鳥会としては理想的な規模。何とか終わらせ先ずはほっとしているところ。いったいどんな探鳥会になるやら見当がつかませんが、コースや内容もあまり固定せず自由にやっけていくなから自然に観察会のカラーが出てくることを望んでいます。又観察会も、野鳥に限らず昆虫や植物にも目を向けて自然に親しみ、楽しむことができたらと思っています。ともすると識別のみにこだわり珍鳥が出ないと満足しない私自身の反省でもあります。この会のモットーを1つだけあげるならば『初心者を中心に』です。この精神を常に忘れずに、観察会を行っていきますので、ご協力お願い致します。 会報 1号より(西ヶ谷修一)

定例探鳥会 200 回記念の展示会を平塚市民プラザで開催いたします。 展示物を募集中です

開催日：10月2日～10月7日

詳しいことは次号以降の会報でお知らせしますが、高麗山や鳥関係(他の自然関係でもOK)など趣味でやっているものなど展示物を募集しています。例:写真、絵画、手芸、彫刻などこの機会に見る側から主催する側になって一緒に楽しみましょう。(岩佐・斎藤までお願いします)

参加者		参加人数 14 名 (敬称略)		
1. 下倉 紘一	2. 佐藤 忠史	3. 山田 文則	4. 吉田 敬一	5. 森田 義雄
6. 八木 正	7. 大谷 秋代	8. 大谷 道男	9.(田端 裕)	10.(西ヶ谷修一)
11.(岩佐 昌夫)	12.(内山規矩雄)	13.(金子 典芳)	14.(斎藤常實)	

『お知らせの追加』

『この夏チャレンジ市民活動！！』主催 ひらつか市民活動センター

8月24日(日)10時～15時

会場:ひらつか市民活動センター 平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階 0463-21-7517
こまたんも少し展示をいたします(アオバトの予定)。会場はこまたんの拠点です(?)。こまたんの展示物を見ながらぜひ一度センターを見に来てください。

アオバト二題 - Birder (バーダー)8月号より

皆さんご存知のバードウォッチングマガジン「Birder」8月号(文一総合出版 発行)に、アオバトに関係した記事が二つ載っていましたので、ご紹介します。

昔話のなかの鳥の名前 - 深山の魔王鳥

アオバトのオスは、青緑色のきれいな体とぶどう色の雨覆いを持つ鳥です。海岸の岩礁に飛んできて海水を飲んだり、温泉が流れる川で水を飲んだりするユニークな行動で知られています。この鳥は、「アオーアオー アオーアオー」とか「ワオー ワオー」というような寂しい声で鳴きます。

その鳴き声から、マオ、アオウ、ワオウ、マオウドリの名で呼ばれてきました。秋田県地方では、深い山に行くと魔王鳥がすんでいて、その鳥の声を聞いたり姿を見ると不吉なことが起きるので気をつけるといわれました。山奥の人気のないところでこの鳥の声を聞くと、不気味な感じがするので、こんなことがいわれたのです。

その秋田県地方では、アオウと呼ばれていましたが、こんな昔話が伝わっています。

昔、長者の家に、まじめでよく働く牧童がいました。朝早くから数頭の馬をつれて山に行き、一日遊ばせて夕方里に連れもどるのです。ところがある日、アオという青い毛の馬が見えなくなってしまいました。アオは長者がとても大切にしていた馬でした。牧童は必死になって探しましたが、アオはみつかりません。牧童は、狂ったようになって、「アオー アオー」と呼び続け、傷だらけになりながら山中を歩きました。いくら探してもアオは見つからず、牧童は疲れはてて倒れてしまいました。死んだ後、牧童の魂はアオバトになって、馬を探しながら山の中を飛びまわっています。「アオー アオー」と呼び続けながら。

これとおなじような話で、継子が山に馬を離しに行つて見失ってしまいました。継母にきつく責められ、継子はアオバトになって馬を探すという話があります。これは秋田県地方だけではなく、他の地域にも伝わる話です。

なぞの鳥・呼子鳥

奈良時代から鎌倉時代にかけて、歌人たちにしばしば用いられた「よぶこどり」ということば。情緒的な用いられ方をすることが多いようですが、いったい、よぶこどりととはどのような鳥なのでしょう。歌の内容から、何の鳥かを推測することはできるのでしょうか。

よのつねに聞くは苦しき喚子鳥 声のなつかしき時にはなりそめぬ

答へぬにな呼びとよめそ呼子鳥 佐保の山辺を上りに下りに

恋心のせいで、かつて苦しい思いで聞いたよぶこどりの声を今なつかしく聞く年齢になった、という歌と、だれもその声に答えるものなどいないのに山中を飛び回って盛んに鳴き立てるな、という歌である。鳥類学者の清棲幸保は、アオバトについては「オ・ア・オー、オ・ア・オーと尺八の音に似た声で長々と続ける」とその声を評している。つまりアオバトは鳴き立てるのである。鳥声録音家の蒲谷鶴彦は「ワーオワーオ、ウワオー、ワオー、ワオー、ウー、と特有の抑揚がある低い声で鳴く。一度聞けば忘れることができないほど印象深い声である。伸ばす声の連続であるが、長ささと高さに変化があり、全体としては奇妙な調子になる」と言っている。こういう声であるなら、歌人たちの心にも印象深く響いたに違いないし、歌にうたわれて不思議はない。

さらに当時の歌によれば、よぶこどりは夜にも鳴く。

さ夜ふけていはせのりのよぶこ鳥 山彦のみぞこたふべらなる

夜が更けて、いわせの森でやまびこのほか答えるものもないなかで、よぶこどりが鳴く、という。アオバトが夜間に鳴くのは聞いたことがないが、蒲谷鶴彦は「早朝と夕方によく鳴き昼間も鳴くが、夜に鳴くことも多い」と言っている。どうやらよぶこどりアオバトだと結論してもよさそうである。

アオバトの日 - 照ヶ崎アオバト観察会

こまたんでは7月最終日曜日を『アオバトの日』として、照ヶ崎海岸でアオバト観察会を行うことにしました。早朝5時頃から9時過ぎまで、皆さんの都合の良い時間に照ヶ崎に足を運んでいただき、なるべく大勢の方にアオバトを知ってもらうのが目的で、その時間帯はこまたんメンバーが待機し、望遠鏡でアオバトを捉え、詳しく説明して、アオバトの魅力をお伝えし、アオバトファンにしておもうという計画です。

その記念すべき第1回目の『照ヶ崎アオバト観察会』が7月27日に開かれました。

梅雨が明けず曇り空で、ときどき小雨がふってきます。この天気では...とアオバトの飛来が気になりましたが、5時10分頃には30羽くらいの群れが飛んできました。その後も順調に飛来が続き9時過ぎまでには1,000羽に近い数が記録されました。20~30羽程度の群れは普通に見られ、80羽くらいの大きな群れも見ることができました。

この日は市民探鳥会もかねており、湘南新聞とこまたんホームページに観察会の案内を出したのですが、天気が良いとはいえ、見に来てくれる人がいるか心配していました。6時を過ぎる頃からポチポチとアオバトを見る人たちが来はじめました。こまたんホームページを見たという人が多かったようです。どこから来たのか質問すると、大磯、平塚からの人が一番多かったですが、横浜や山北からという方もいらっしゃいました。一番遠かったのは埼玉県からの御婦人です。ホームページでアオバトを知り、どうしても見たくてやってきたそうです。望遠鏡で捉えた姿を見て感激していました。この方からは「大磯の魚屋さんで聞いたけどアオバトなんて知らないといってたわよ！」とか「大磯町の鳥はカモメなの、アオバトにすればいいのに！」など私たちにも参考となる意見をいろいろと聞かせていただきました。バーベキューや磯遊びにきた人にも望遠鏡でアオバトをのぞいてもらいました。「きれいだね~!」、「緑色のハトははじめて見た！」など、感動したような声が多く聞かれました。

9時10分頃、岩礁の上を飛ぶ20羽くらいの群れに1羽のハヤブサが襲いかかりました。体当たりされた

が海上に落下すると、それをつかみ取ろうとハヤブサが何回もトライしていました。なかなかつかめなかったのですが、数回目にやっと持ち上げることができ、重そうに飛びながら西側のテラポットの上に運んでいきました。相当に疲れたようで、脚でしっかりと獲物をつかんだまま、しばらくは動きが見えませんでした。そのうちに羽をむしり食べ始めましたが、大勢のカメラマンがレンズを向けるので落ち着かない様子でした。一人のカメラマンがすぐそばまで近づいたために、食べ残った獲物をつかんで西の方に飛び去ってしまいました。自然の摂理でアオバトがハヤブサの餌になるのは仕方がないことです。それならば、せっかく苦勞して捉えたものなのだから、ゆっくりと食べさせてあげたいと思います。

天気がまいちで、アオバトの本当の美しさは見ることはできませんでしたが、望遠鏡でその姿を見た人からは例外なく「きれいな鳥だね」という声が聞かれました。「天気の良い日にまたくるよ!」といってくれた人も多かったです。アオバトの飛来数が少なくなったので10時少し前で切り上げましたが、46人もの方が来てくれました。8月になりやっと梅雨が明けました。これからは早朝の朝日を浴びたアオバトがひととき美しく見える季節です。9月までは飛来数も非常に多いです。「アオバトの日」は過ぎましたが、土日曜ならばこまたんのメンバーが観察していると思います。朝なるべく早い時間に照ヶ崎海岸に来てみてください。感動、感激をお約束します。

鳥 報

照ヶ崎アオバト情報

観察日	観察時間	天 気	飛来回数	飛来羽数	瞬間最大数	幼鳥飛来数
7/13	5:50 - 11:50	/	39	365	70+	-
7/17	15:20 - 16:00		4	20	12	-
7/20	5:40 - 9:00		?	229	30	-
7/21	5:40 - 8:30		37	439	44	-
7/23	5:50 - 8:50	/	25	178	19	-
7/26	5:50 - 10:20	/	54	507	42	2
7/27	5:50 - 9:50	/	92	1,677	80+	-
7/28	5:50 - 9:50		74	1,408	70+	6
7/29	5:50 - 9:50	/	53	910	60+	-
8/1	5:50 - 10:50	/	71	1,484	130+	3
8/2	6:20 - 8:50	/	58	1,569	150+	13
8/4	17:10 - 17:35		4	35	16	-
8/5	6:00 - 8:30	/	42	958	60	2

【お知らせ】

8月14日(木) アオバト・ミニ観察会

国府中学校の子どもたちと先生(4,5人)に頼まれて、田端さんがミニ観察会を行います。
平日ですが、望遠鏡持参でのサポーターを大歓迎します。

時 間：午前6時～8時

場 所：大磯町・照ヶ崎海岸 (大磯港の西側、プール脇の防波堤の外側)

8月24日(日) オオタカ保護シンポジウム in HIRATSUKA

- ホタルとオオタカの棲む西部丘陵地の里山保全 -

<午前の部> 西部丘陵の里山観察会 午前9時15分 土屋霊園入り口集合
(8時42分 平塚駅北口発 中沢橋経由秦野駅南口行きバスの利用が便利)
観察会終了後11時25分のバスで平塚に戻ります。

<午後の部> 講演 + 報告 + パネルトーク 13時10分 ~ 16時40分

会 場：平塚中央公民館

「ゴミと野鳥」という題で、田端さんがお話をします(13:10~14:10)。

午後の部は資料代として500円必要です。

連絡先: 岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

次回の定例探鳥会は2003年9月14日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第198号 / 8月号 発行所: こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www2u.biglobe.ne.jp/komatan/>
日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>